

経済政策論 I

科目ナンバリング ECP-211
選択 2単位

二村 英夫

1. 授業の概要(ねらい)

経済政策論は、経済に関して政府が行う政策の総称と捉えられ、この中でも金融政策、財政政策が重要です。マクロ経済の基本的な枠組みをベースに経済政策の基礎理論を説明いたします。また、こうした政策は、経済環境、経済制度により政策目的や政策の効果が変化します。こうした点も説明いたします。

2. 授業の到達目標

マクロ経済の枠組みと経済政策の概要、政策目的、政策効果の基本を理解することを目的とします。

3. 成績評価の方法および基準

出席状況(25%)、授業中に出す課題(10%)、中間テスト・期末テスト(65%)から総合的に評価します。

4. 教科書・参考文献

参考文献

N.グレゴリー・マンキュー 『マクロ経済学 入門編(第4版)』 東洋経済新報社

5. 準備学修の内容

授業の後に授業で配布した資料をベースに復習を心がけてください。また、日頃から経済のニュース報道に関心を持つようにしてください。

6. その他履修上の注意事項

経済政策論 I と経済政策論 II を継続して履修することを原則とします。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 経済政策論とは何か
- 【第3回】 国民経済の捉え方(国民総生産、国民所得勘定)
- 【第4回】 金融経済の捉え方(国民経済を金融面から捉える)
- 【第5回】 貨幣とインフレーション
- 【第6回】 金融政策の目的と手段
- 【第7回】 財政政策の目的と手段
- 【第8回】 ケインジアン交差図を用いた財政政策の効果
- 【第9回】 IS/LMモデルの構築(財サービス市場、金融市場の均衡)
- 【第10回】 IS/LMモデルの応用(金融政策、財政政策の効果)
- 【第11回】 総需要の理論としてのIS/LMモデル
- 【第12回】 マンデル・フレミング・モデルと開放経済モデル
- 【第13回】 マンデル・フレミング・モデルと通貨制度、政策効果
- 【第14回】 短期から長期への捉え方
- 【第15回】 まとめ